

[No. 23-13]

令和5年10月10日

報道機関 各位

長岡京ガラシャ祭第30回記念シンポジウム「どうするガラシャ」！&企画展

「長岡京ガラシャ祭」は、明智光秀の娘・玉（細川ガラシャ）が、勝龍寺城城主・細川藤孝（幽斎）の嫡男・細川忠興のもとに輿入れした歴史にちなんで、毎年11月に開催される長岡京市最大の市民祭りです。

平成4年の勝龍寺城公園整備を契機に始まった長岡京ガラシャ祭は、今年で30回目を迎えます。

これを記念して、長岡京ガラシャ祭実行委員会では、国際日本文化研究センターと共催で、記念シンポジウム&企画展示を開催いたします。

■長岡京ガラシャ祭第30回記念シンポジウム

日時 令和5年11月3日（金）午後1時30分～3時30分（開場：午後1時）

場所 長岡京市中央生涯学習センター メインホール
（京都府長岡京市神足2丁目3番1号・バンビオ1番館3階）

定員 300名（当日先着受付）

※要約筆記・手話通訳をご希望の場合は、10月25日（水）までに事務局へ

内容 《第1部》『散りぬべき時』動画上映・制作トーク

フレデリック・クレインズ教授（国際日本文化研究センター）

三浦麻乃氏、府高航平氏（『散りぬべき時』作者）

《第2部》講演「どうするガラシャー 関ヶ原の戦い前夜！細川家と徳川家康ー」

フレデリック・クレインズ教授（国際日本文化研究センター）

主催 長岡京ガラシャ祭実行委員会

共催 国際日本文化研究センター、長岡京市

※参考

◆『散りぬべき時』

『散りぬべき時』とは、ガラシャの最期を描いた漫画で、令和4年度に国際日本文化研究センターから刊行されています。

◆フレデリック・クレインズ教授プロフィール

国際日本文化研究センター副所長・教授。博士（人間・環境学）。専門分野は戦国文化史、日欧交渉史。ベルギー出身。1993年ルーヴァン・カトリック大学文学部卒業。2003年京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。

徳川家康、細川ガラシャ、三浦按針の人物像を中心に戦国末期、特に戦国女性の生きざまや武家文化の研究を行う。著書に、『明智光秀と細川ガラシャー戦国を生きた父娘の虚像と実像』（共著、筑摩選書）など。



■長岡京ガラシャ祭×日文研 第30回記念企画展「玉の輿入れ」

期間 令和5年11月3日（金）～12月17日（日）

場所 勝龍寺城公園2階展示室（京都府長岡京市勝龍寺13-1） ※入場無料

内容 勝龍寺城への玉の輿入れの様子を描いたイラストパネルの展示、『散りぬべき時』の動画上映

主催 長岡京市・長岡京市観光協会・国際日本文化研究センター

共催 長岡京ガラシャ祭実行委員会

【お問い合わせ先】

《シンポジウム》長岡京ガラシャ祭実行委員会事務局（市民協働部自治・共助振興室地域協働係内）

担当：田邊・米富・安藤 電話：075-955-9684

《企画展》長岡京市環境経済部商工観光課

担当：上田・中川 電話：075-955-9515